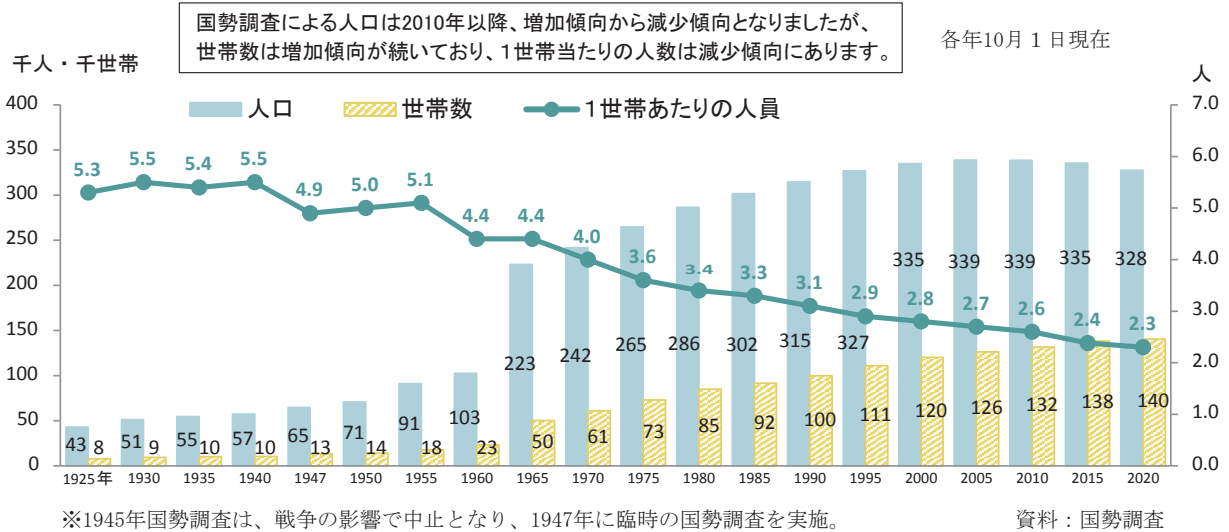


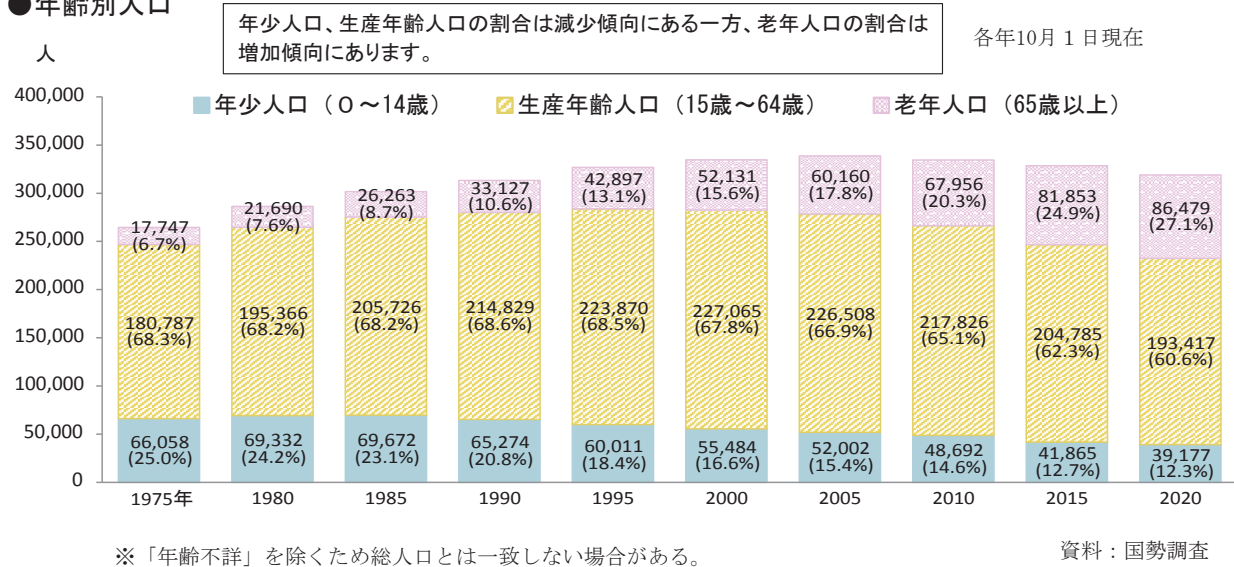
1 人口



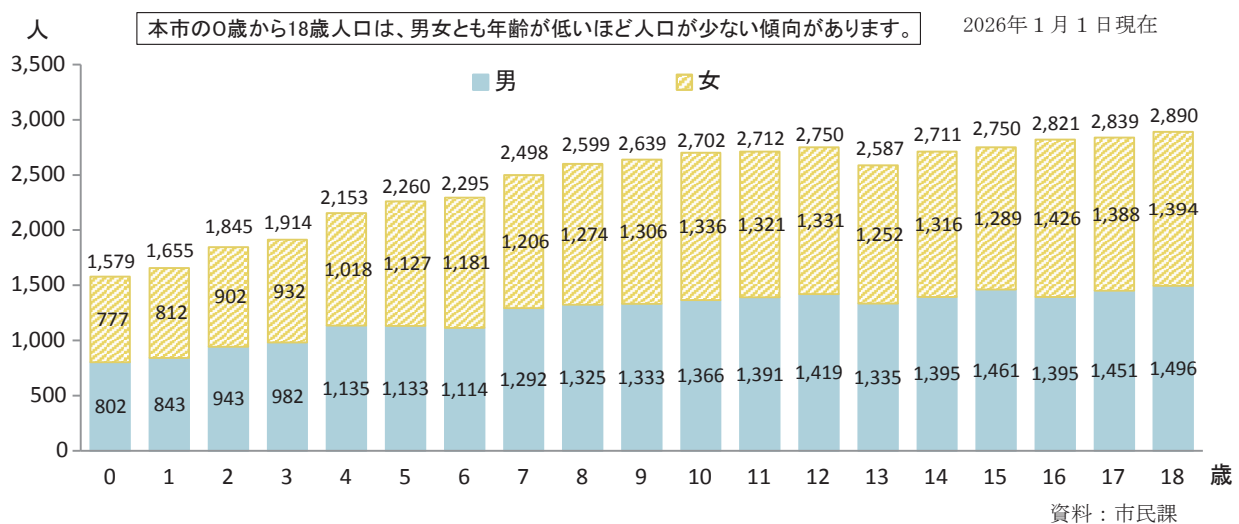
●人口と世帯数



●年齢別人口



●0歳～18歳人口(年齢1歳階級別)

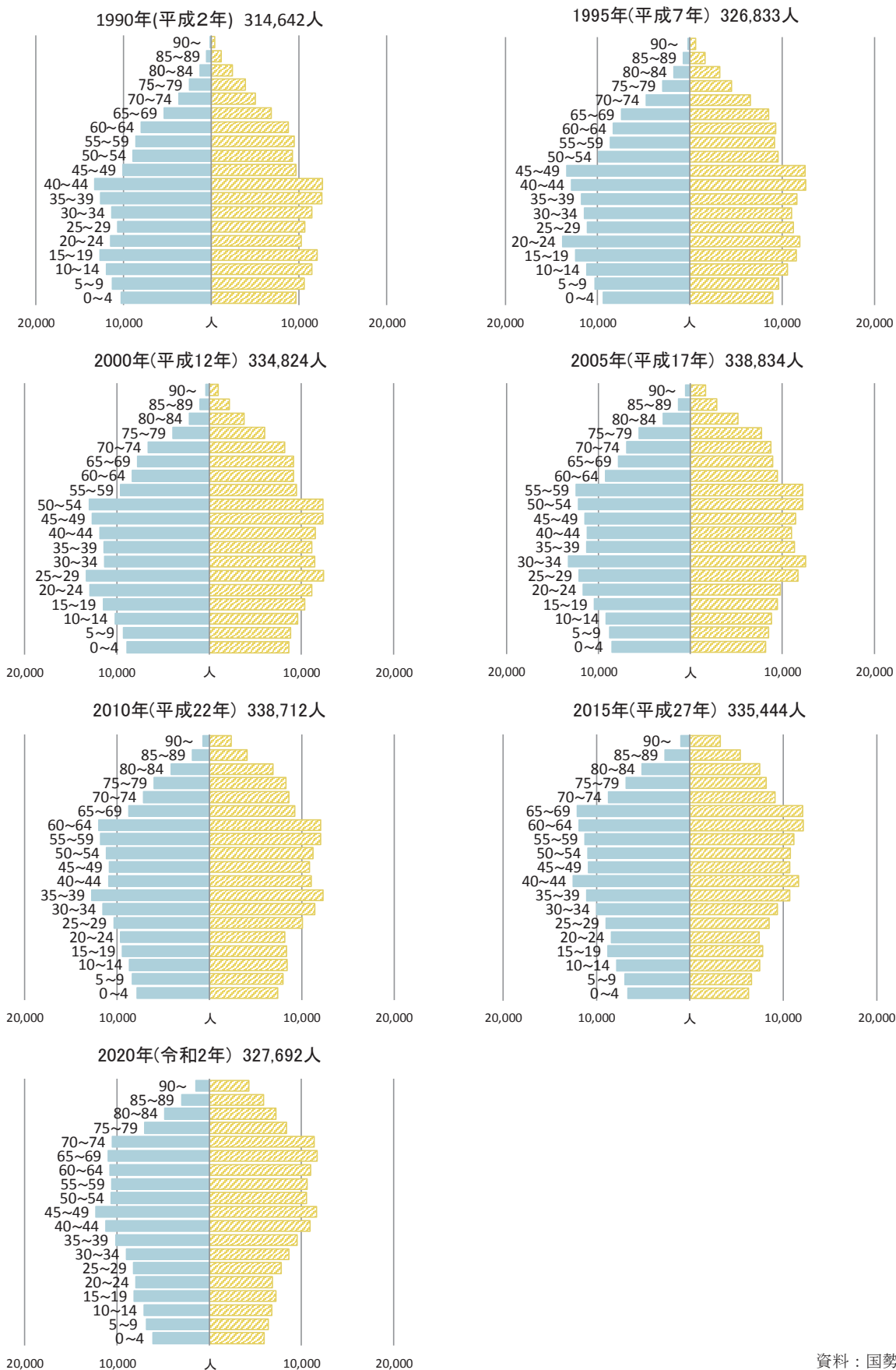


●人口ピラミッド

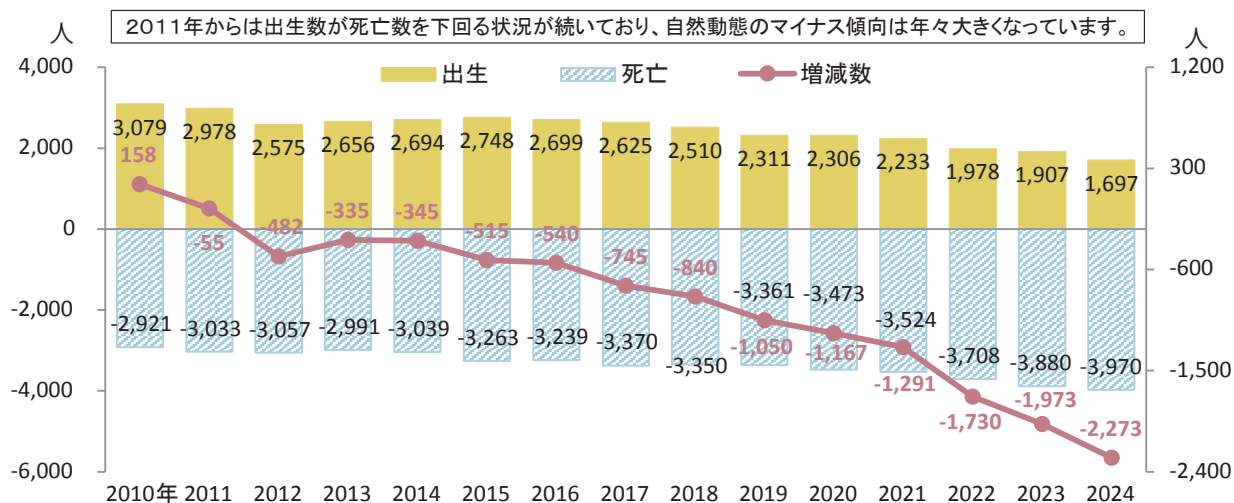
少子高齢化が進行し、「つりがね型」から「つぼ型」の形状へ変化しています。

各年 10月1日現在

■ 男 ■ 女

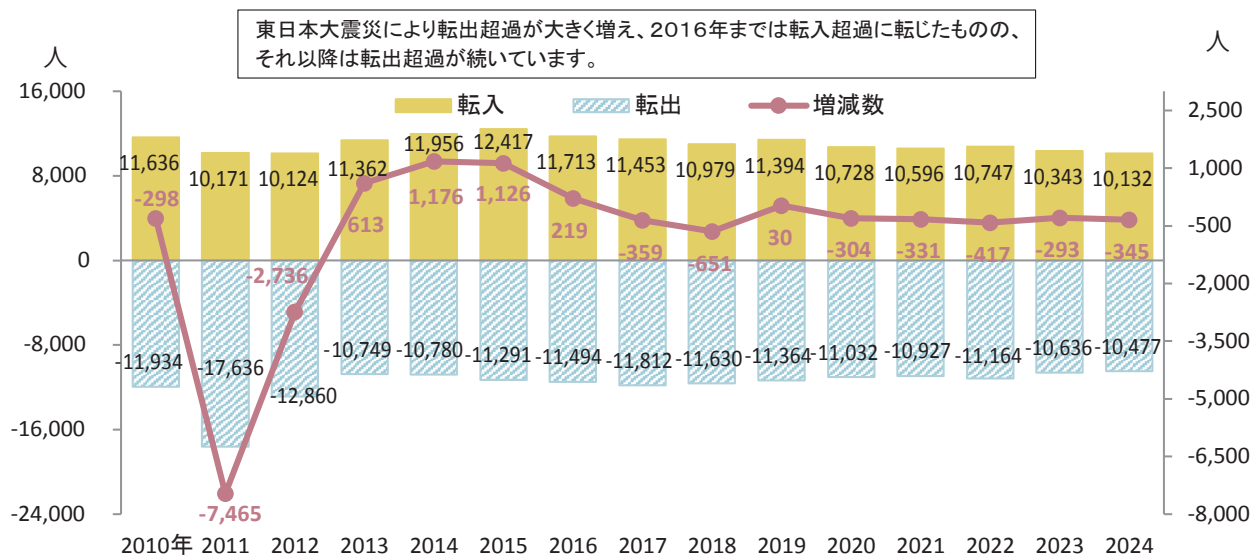


●人口動態(自然動態)



資料：郡山市統計書

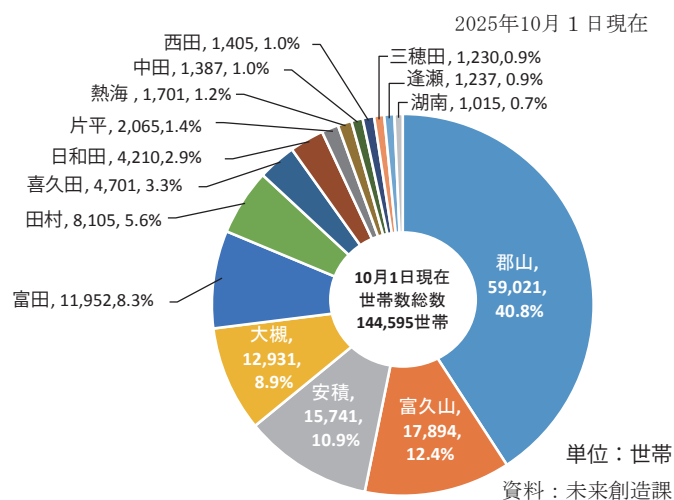
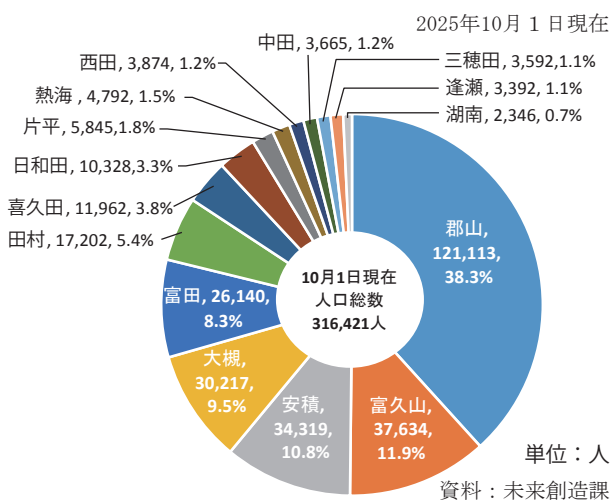
●人口動態(社会動態)



資料：郡山市統計書

●地区別人口・世帯数割合

人口・世帯数とも郡山(旧市内)、富久山、安積、大槻、富田の5地区で全体の約80%を占めています。

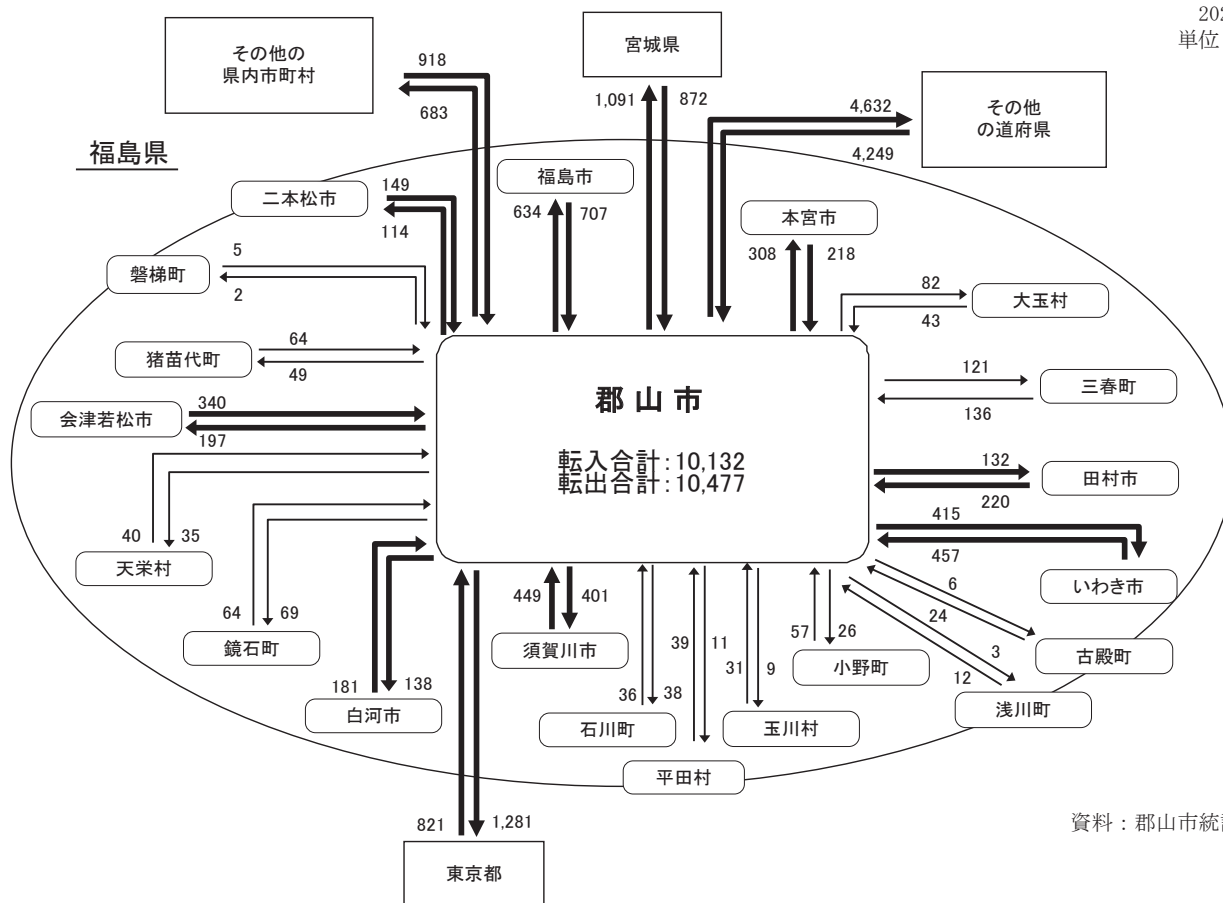


※この人口及び世帯数は、2020年10月1日に行われた国勢調査（確報値）の人口及び世帯数を基にして、毎月の住民基本台帳による異動の数を加減して算出したものです。

●転入・転出の状況

転出数が転入数を上回る転出超過となっており、特に東京都、宮城県への転出者数が多くなっています。

2024年
単位：人

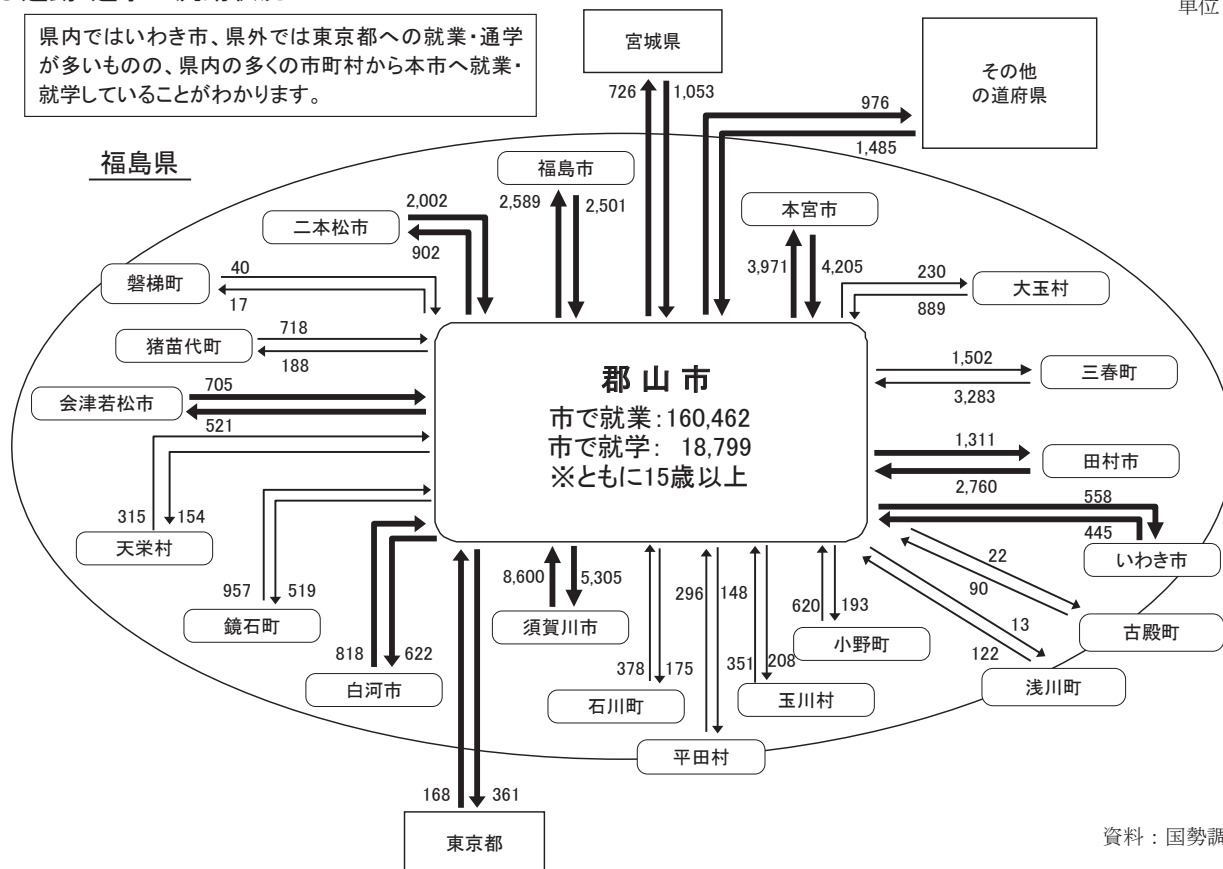


資料：郡山市統計書

●通勤・通学の流動状況

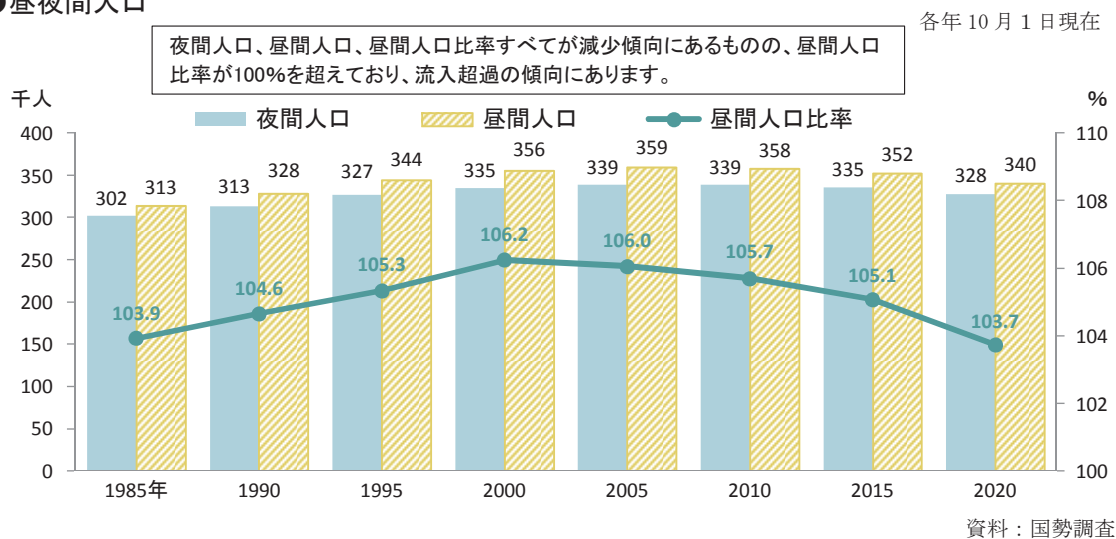
県内ではいわき市、県外では東京都への就業・通学が多いものの、県内の多くの市町村から本市へ就業・就学していることがわかります。

2020年10月1日現在
単位：人

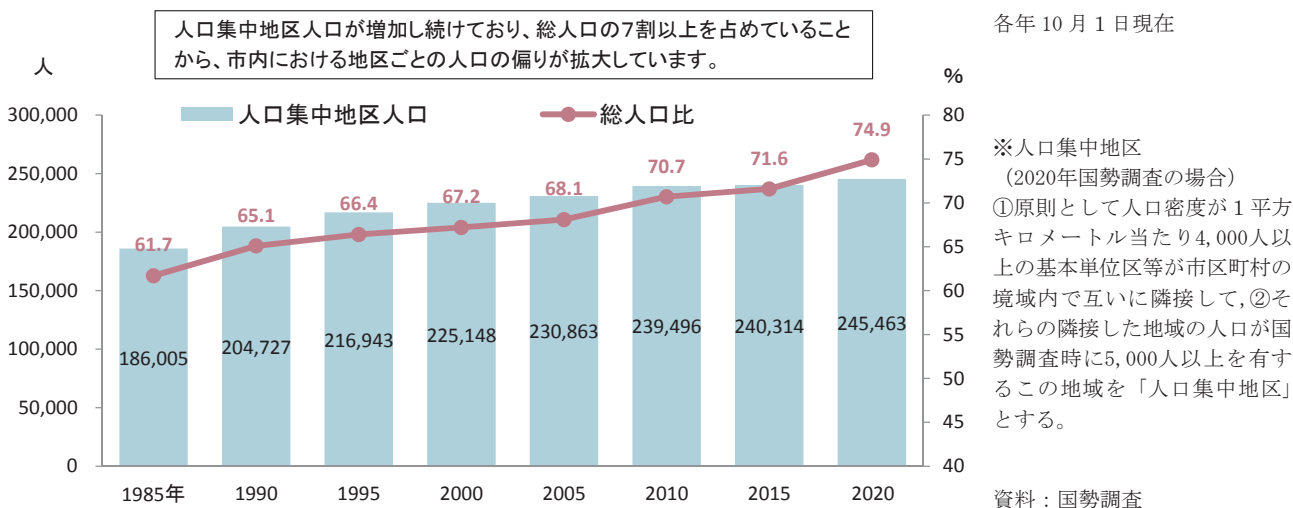


資料：国勢調査

●昼夜間人口

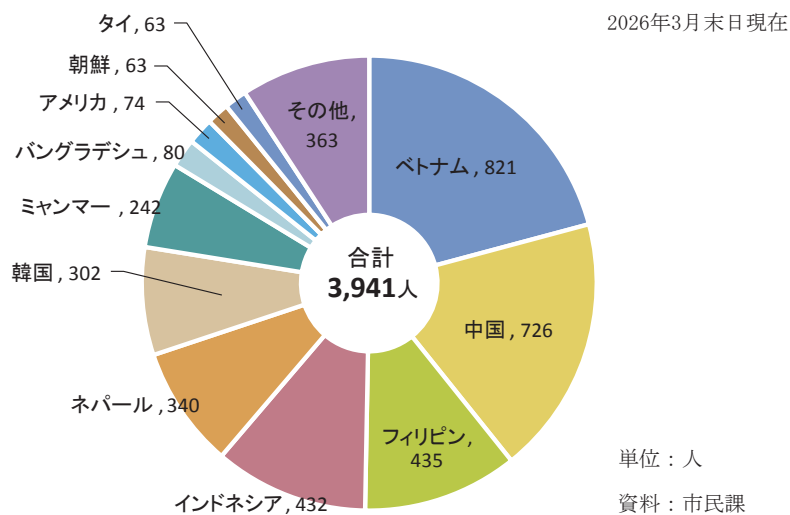


●人口集中地区人口



●外国人住民登録者数

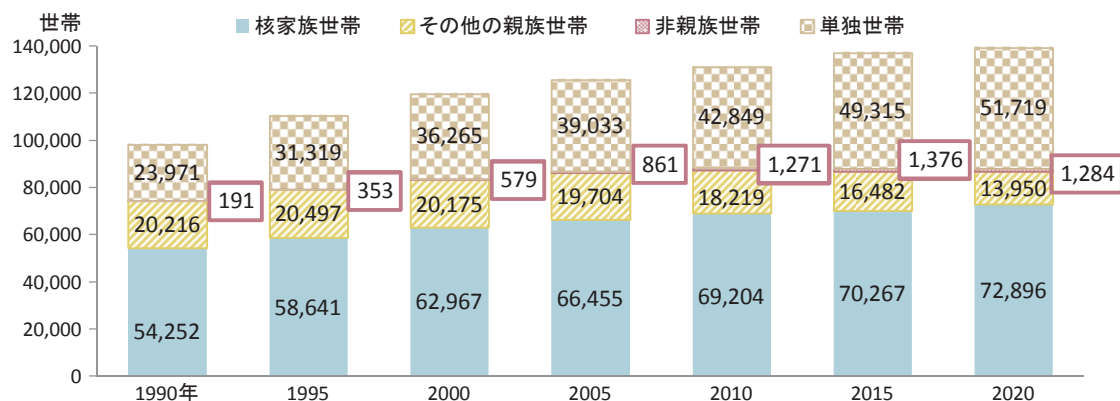
本市に住民登録のある外国人を見ると最も多い国籍がベトナムとなっており、次いで中国、フィリピン、インドネシアなど、アジア地域の国籍が多くなっています。



●家族類型別世帯数

1990年の調査以降、核家族世帯、単独世帯が増加傾向にあります。

各年10月1日現在



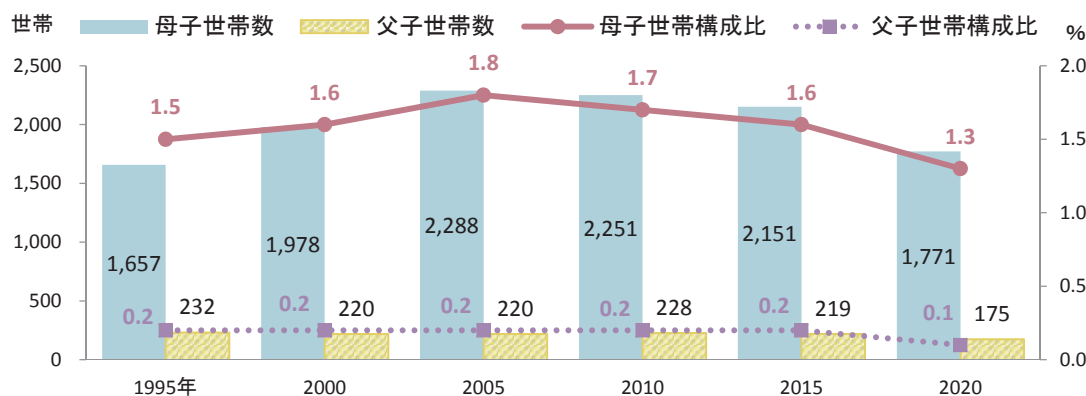
※2015年の国勢調査では類型区分について「その他親族世帯」が「核家族以外の世帯」、「非親族世帯」が「非親族を含む世帯」に変更となったため単純比較はできない。
※「不詳」の世帯を除くため、総世帯数と一致しない。

資料：国勢調査

●母子・父子世帯数

各年10月1日現在

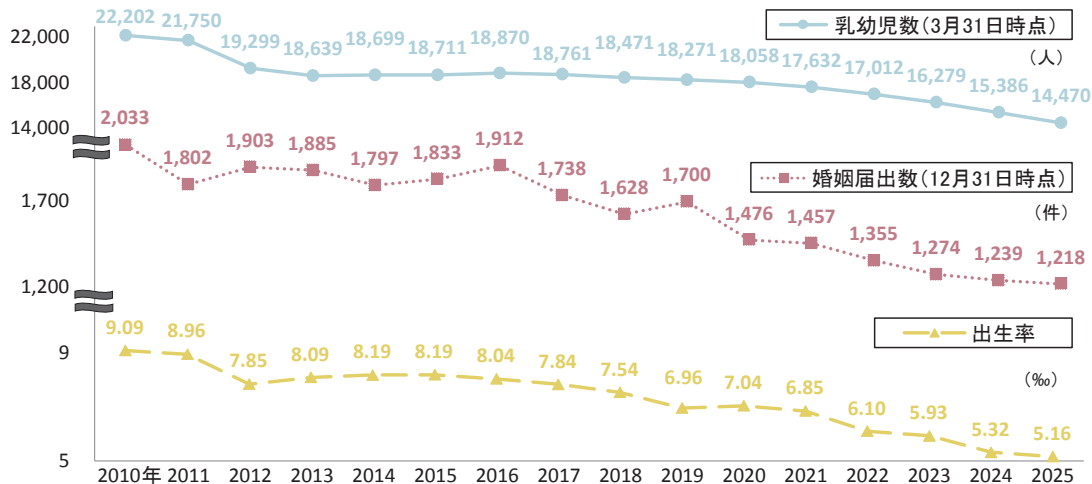
2005年調査以降、母子・父子世帯数は減少傾向にあり、母子世帯構成比も減少傾向にあります。



資料：国勢調査

●乳幼児数・婚姻届出数・出生率の推移

乳幼児数、婚姻届出数、出生率全てが減少傾向にあります。



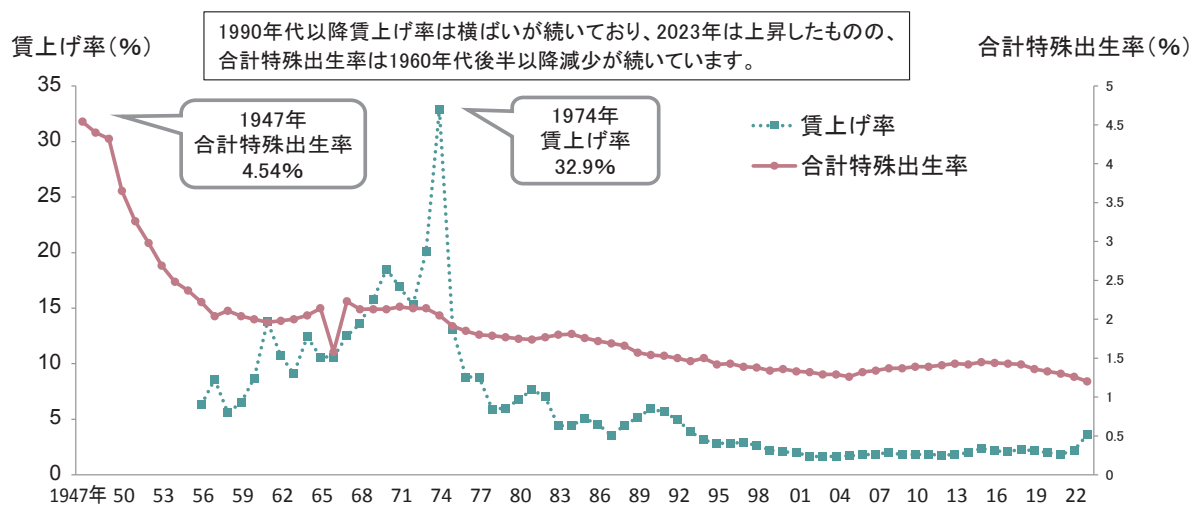
※出生率(%) = $\frac{1 \text{ 年間の出生数}}{\text{毎年10月1日現在の現住人口}} \times 1,000$

資料：郡山市統計書
市民課

※乳幼児数：毎年3月31日時点で0歳から6歳の者

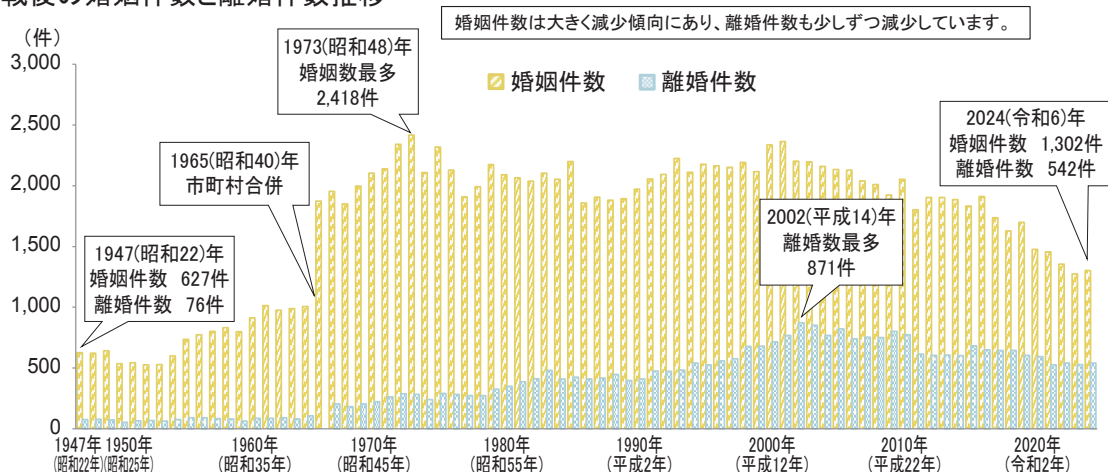
※婚姻届出数：毎年12月31日現在で郡山市に届出のあった件数

●【全国】出生率と賃上げの推移



資料：厚生労働省「民間主要企業春季賃上げ要求・妥結状況」
厚生労働省「厚生労働白書」
厚生労働省「人口動態統計月報年計（各定数）の概況」

●戦後の婚姻件数と離婚件数推移



2022(令和4)年 離婚件数541件÷婚姻件数1,355件=39.9% (約2.5組に1組が離婚)

2023(令和5)年 離婚件数527件÷婚姻件数1,274件=41.4% (約2.4組に1組が離婚)

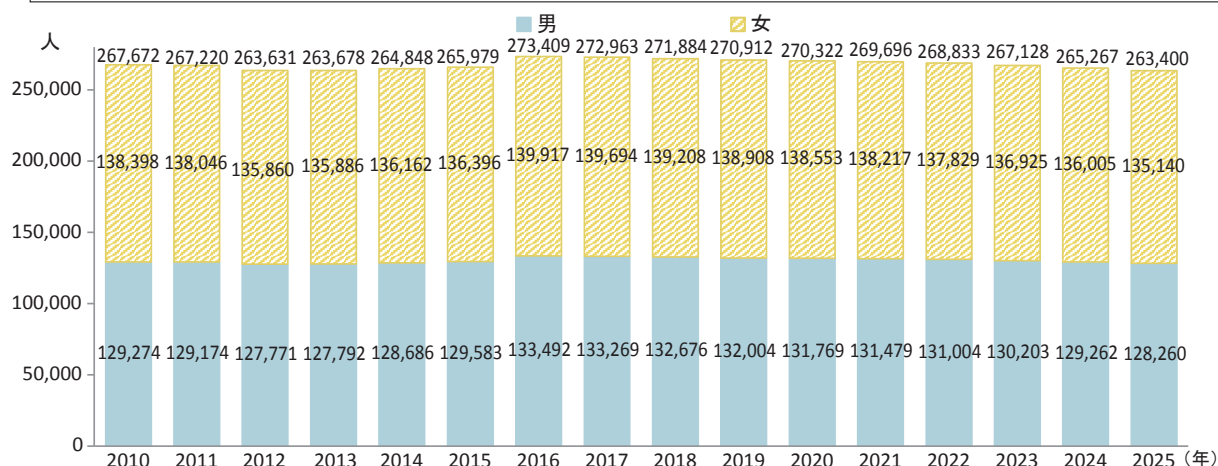
※1965(昭和40)年の婚姻・離婚件数及び1966(昭和41)年の離婚件数については、データなし

資料：郡山市統計書
郡山市史（近代）

●選挙人名簿登録者数

各年9月1日現在

選挙人名簿登録者数は、2016年に選挙権年齢が18歳以上に拡大されたことにより増加しましたが、その後は減少傾向にあります。

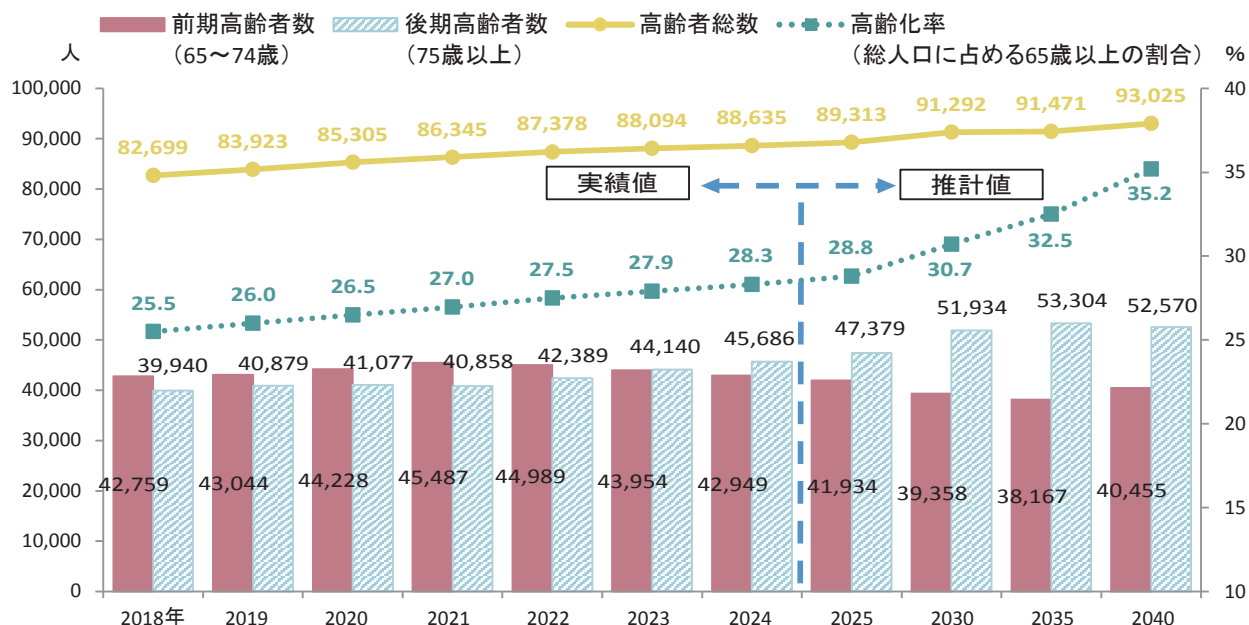


資料：郡山市統計書
選挙管理委員会事務局

●高齢者(65歳以上)数と高齢化の状況

2018年～2025年は各年9月30日現在

2018年の調査以降、65歳以上の高齢者総数は増加しており、今後増加傾向が続くと予測されます。
また、高齢化率も年々増加しており、2023年からは、後期高齢者数が前期高齢者数を上回っています。



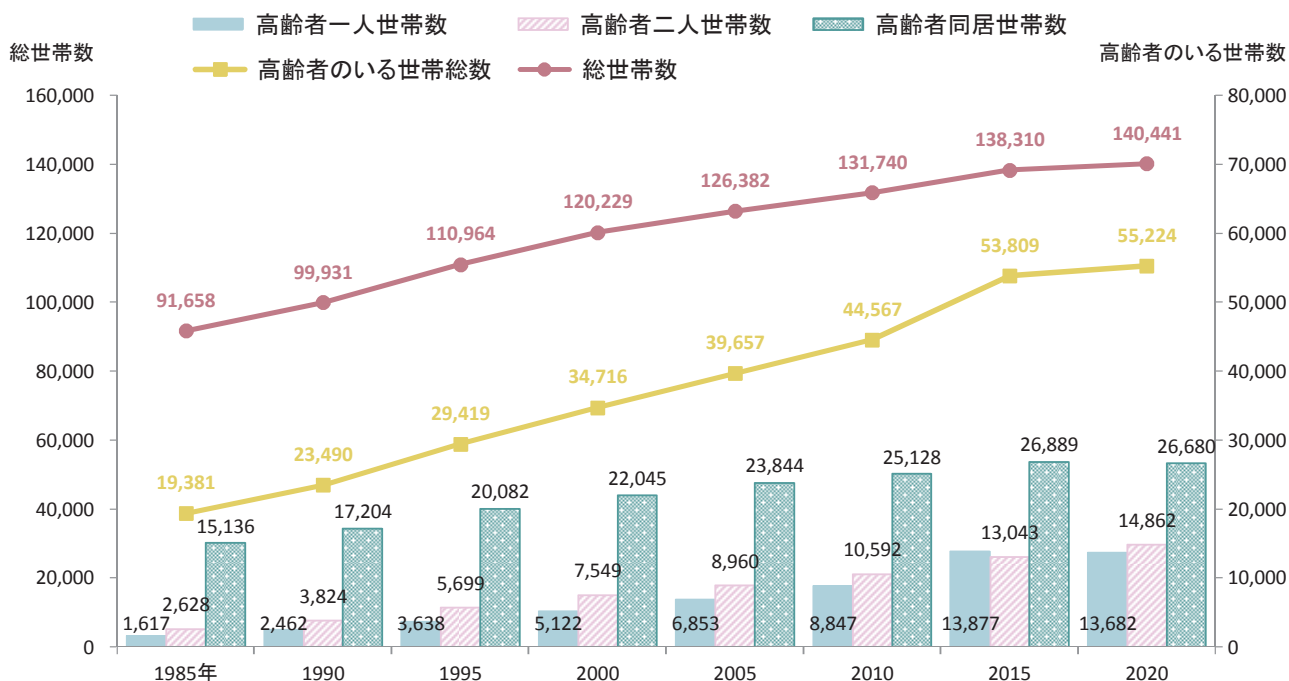
※2018年～2024年までは住民基本台帳
2025年以降は介護保険課推計値

資料：地域包括ケア推進課

●高齢者(65歳以上)のいる世帯の状況

各年10月1日現在

1985年調査以降、総世帯数の増加とともに高齢者のいる世帯総数も増加しています。
高齢者のいる世帯では、高齢夫婦や高齢親子などの高齢者二人世帯数が年々増加しています。



資料：地域包括ケア推進課
国勢調査